

集会宣言

2025年8月2日～4日の3日間、高崎アリーナをメイン会場に、第57回全国保育団体合同研究集会を開催しました。酷暑の中でしたが、群馬をはじめ全国の実行委員、そして参加者の思いと知恵が発揮され、集会テーマ「こころをつなごう 手をつなごう あふれる笑顔と平和のために」の通り、熱い思いと笑顔にあふれた集会となりました。全国各地で「合研に参加して一緒に学ぼう」と、保育者・保護者一人ひとりに呼びかけ、誘いあい、伝えあう取りくみのもと、参加者は7687名、会場には3313名が集いました。

8月2日は、300人の子どもの歌と、保護者と保育者による沖縄エイサーで始まり、会場が一体となりました。開催地企画として、平和への願いをこめて、群馬実行委員会の仲間による朗読と合唱「プロメテウスの火」が行われました。歌がもつ「生命力」「力強さ」に圧倒され、群馬の保育で長年大切にされてきた文化の蓄積、保護者と保育者とのつながりの強さを感じました。

「感じる、知る、つながる 豊かな保育・子育てを」と題した保育・子育てフォーラムでは、子どもや保護者を取りまく状況を知ること、ズレや違いを受けとめ、話しあうことの大切さが語られ、みんなで一歩ふみ出そうと確認しあいました。

その学びを土台に、8月3日は14講座と31分科会を行い、実践や思いを出しあい、学びを深めました。

講座では、関東の地域を中心に9団体が司会を担いました。合研や『ちいさいなかま』、講座の内容について、それぞれ自らの言葉や思いも語りながら進め、会場からも発言しやすい、あたたかい雰囲気の講座となりました。

分科会は、23都道府県7団体が運営し、会場で31分科会、8月9日にはオンラインで19分科会、計50分科会が実施されました。140本の提案をもとに、じっくり語り合い、考え合い、学び合い、交流することができました。

8月4日の全体会では、絵本『おおはくちょうのそら』の朗読とピアノ・ヴァイオリンの演奏がありました。その後は、白石正久さんの記念講演「いのちを守り、豊かな発達を保障するために、今大切にしたいこと」が行われ、子ども一人ひとりの豊かな発達について学びました。

8月22日～9月23日まで録画配信が行われ、各地で学びを共有し保育・子育てを語りあう取りくみが広がりました。

全体会、講座、分科会を通して、「みなさんの話を聞いて、いろいろなやり方、考え方があっておもしろいと思いました」「ズレを感じて苦しかったけれど、そこから始めればいいんだと安心しました」などの感想が多く寄せられました。視野や関心が広がる経験の喜び、多様性を尊重しながら学びあうことの大切さが実感できる集会であったと言えます。

全国の保育者、保護者、研究者等が集い、57回の歴史を重ねてきた合研ですが、対等な立場で保育・子育てについて語り合える場の必要性・重要性はますます大きくなっています。第58回集会は、1995年の阪神・淡路大震災を経験した兵庫で行われます。今集会で感じた熱い思い、学びあったことを各地・各園で広げ、実践を重ねて持ちより、ぜひ、誘いあって第58回集會に参加しましょう。

兵庫での再会を楽しみにしています。

2025年10月5日

第57回全国保育団体合同研究集会